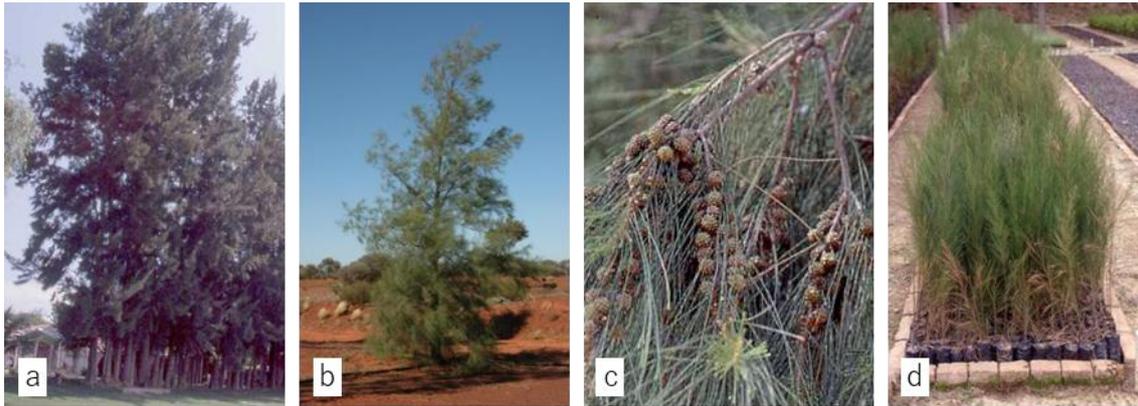


カンニンガムモクマオウ (モクマオウ科)

Casuarina cunninghamiana Miq.

英語：River oak、River she-oak

スペイン語：Roble de río, Pino australiano



【概要】リバーオークとも呼ばれる本種はオーストラリア東部が原産で、熱帯から温帯まで広く分布する。耐乾性および耐寒性があり、山岳地にも植栽されている。窒素固定、防風林、防護林、浸食防止、鑑賞用などとして植栽される。また、飼料木、燃料木としても利用される。有用で幅広い環境に適應するため、アメリカ合衆国南部から南米各国、アフリカ諸国、インド、タイ、イスラエルなど多くの国々に導入されている。

【形態】樹高 20～35m、胸高直径 1.5m になる常緑高木 (写真 a,b)。樹冠は径 10m ほどに広がる。灰緑色の小枝は細くて柔らかく、各節に渦巻き状に小さな三角形の葉が 8～10 個着いている。雌雄異株。卵形、木質の球果は小さな松かさ に似ており直径 6～10mm、翼を付けた小さな種子が入っている (写真 c)。

【生態】乾燥地に生育する場合は、川や小川の周辺、谷の平地などあるいは岩石の多い丘の水路に沿って生育する。土壌は砂土および砂質壤土を好むが古い川床の粘土質壤土、砂礫段丘などにも分布する。また、粘土質土壌、酸性土壌でも生育可能だが同属他種と比べ耐塩性はやや低い。

【繁殖・育苗】種子の成熟は早い。成熟した球果を採取し、乾燥させて種子をふるい分ける。1g あたり約 1600 個の種子が含まれており、冷暗所で保存するが長期保存はできない。播種前の処理は不要。発芽床または畑に均等に蒔き付け軽く覆土する。発芽には 30℃前後の温度と十分な湿度が必要。種子が小さく覆土も薄いため散水には注意が必要。通常は 3 週間以内に発芽が終了する。発芽率は 55～90%。苗丈が 5～6cm になればポットに移植し 4～6 ヶ月育成する (写真 d)。苗高 50cm、根元径 8mm に成長すれば植栽する。挿し木で増殖も可能。本種は放線菌 (フランキア属の細菌) と共生することで窒素固定を促進させ、生存率と成長率を高めることができる。種子を採取した場所の土壌根域から集めた根粒を粉砕して雨水と混合し、苗木あるいは土壌に施用する。オーストラリアでは接種剤を購入することもできる。

【成長・その他】貧栄養、酸性、中程度の塩集積などほとんどの土壌タイプに植栽可能で

ある。植栽初期には動物による食害、野火の被害を防止する。本種は非常に強い頂芽優勢を示す傾向があり、枝打ちなど修正剪定の必要性は少ない。一般的に1年間で1m以上の伸長成長をする。若い時から根萌芽で増殖する。西オーストラリアの年降水量200mm前後の乾燥地でハードパン破碎、マイクロキャッチメントを併用した疎植栽では5年で平均樹高約6mに成長したが、その後の樹高成長は鈍くなった。

【主な参考文献】(1)Turnbull, J.W ed. (1986). Multipurpose Australian trees and Shrubs.316pp. ACIAR.

(2)http://apps.worldagroforestry.org/treedb/AFTPDFS/Casuarina_cunninghamiana.PDF. Accessed 24 Feb. 2022.

(3)https://rngr.net/publications/ttism/species/PDF.2003-12-08.1104/at_download/file. Accessed 20 Feb. 2022.

写真 a : Casuarina cunninghamiana 植栽 Boli99Oct S28-2

写真 b,c : cunninghamiana WA07Mar S94

写真 c : Casuarina cunninghamiana 実 2 Boli99Oct S122-2

写真 d : Casuarina cunninghamiana(苗) Boli99Nov S27